



©FC TOKYO

巻頭特別企画

俵積田 晃太 選手 (FC東京) インタビュー 「FC東京でJ1優勝を果たし、 日本代表に定着したい」

TOKYO FA's Pick Up

ウェルフェアオフィサー セーフガーディング

GAME REPORT

第30回東京都サッカートーナメント決勝
2025東京国際ユース(U-14)サッカー大会
第79回 国民スポーツ大会関東ブロック大会
JFA バーモントカップ
第35回全日本U-12フットサル選手権大会 東京都大会

SPECIAL INTERVIEW

スフィーダ世田谷FC 川嶋珠生監督

REPORT

東京2025デフリンピック

「サッカーライフ」

FCムサシコーチ 佐藤美佳さん

私たちは 東京都サッカー協会を 応援しています。

初声町和田長浜太陽光発電設備



神奈川県初声町和田（和田長浜海岸側）
2021年4月
取得名義：株式会社スカイ・ランド
（日本水資源開発株式会社関連会社）

人を潤し自然を守る
ECO UP PROJECT

 日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永 利明

《東京営業所》

〒142-0063 東京都品川区荏原3丁目2番6号
TEL 03-3477-2477 FAX 03-3477-7661

サッカーでの安心・安全、そして子どもたちの笑顔を守る それはサッカーファミリー全員の役割であり責務

ウェルフェアオフィサー

日本サッカー協会とJリーグは、2008年度からサッカー界におけるリスペクトの重要性を認識し、リスペクトプロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、フェアプレーの原点として全力でプレーすることを重視し、仲間や対戦相手、審判、指導者、施設、サポーターなど、サッカーに関わるすべての人々を尊重し大切にすることを目指しています。

サッカーを楽しむサッカーファミリーの安心・安全を守り、より快適なサッカー環境を構築する役目を担うウェルフェアオフィサーについて紹介します。



ウェルフェアオフィサーの役割には、リスペクトやフェアプレーを啓発、促進し、暴力、差別等の予防活動を通じて、問題を未然に防ぐ、また、顕在化した諸問題に対応、問題解決を図ると共に、問題の内容や重大さによって司法機関や諸関連組織への橋渡しとしての役割を担っています。

今号では、活動の一環である「セーフガーディング」を紹介します。

「セーフガーディング」とは

子どもたちがサッカー、スポーツを安心、安全に楽しむ権利とその環境を守るための取り組み

「セーフガーディング」の目的とは

- ・子どもたちがサッカーを安心・安全に楽しみ続けられる環境を生み出す
- ・守り続ける
- ・子どもたちをエンパワーする
- ・そのために、指導者をはじめ、サッカーに関わる全ての人々が指針を順守すること

「セーフガーディングワークショップ」について

- ・ウェルフェアオフィサー活動の一環
- ・日常のサッカー現場で安心・安全な環境をいかに生み出し、守っていくかについて、共に考えながら学ぶ研修会
- ・何が安心・安全を生み出すのか、また、阻害するのかを、身近な事例を通して考えて、講義を聞くだけではなく、グループで話し合ったりワークをしたりすることで、他者と意見を交わしながら理解を深めていく
- ・連盟内のリーグやブロックで共にプレーするチームで集まって実施するなどの形を推奨
- ・指導者ばかりでなく、チームの役員、保護者等、様々な立場の人が共に参加し実施することも有意義な形

2025年度セーフガーディングワークショップ開催レポート

2025年7月26日に東京体育館にて、セーフガーディングワークショップが開催されました。

当日は、ウェルフェアオフィサージェネラル (WOG) を中心に各連盟・委員会の希望者、未体験の方、来年WOG取得予定の方々が参加しました。

はじめに古賀WOG部会長より、参加しているWOGへ各連盟・委員会内で予防・啓発活動を重視した取組として、参加者が主体性を持った体験型となっているセーフガーディングワークショップを広めてほしいと話がありました。

講師は、技術委員会の川村元雄氏が務めました。冒頭でリスペクトはフェアプレーの原点であること、続いてJFA宮本会長からのメッセージ放映、グループに分かれてのアイスブレイクがありました。

ワークショップの進め方のコツや実践形式の具体的な説明がなされました。コミュニケーションと配慮、指導と育成における課題と対策、子どもとの関わり方と成長、チーム活動と環境づくり、教育現場での課題や対策などの講義がありました。最後に、指導者とプレイヤーの適切な関係をつくるものとして「正しい人々」「正しい振る舞い、態度」「正しい行動」がロールモデルであり、時代が変わり、指導が難しくなってきたと感じることもあるかもしれないが、変わらないものもある、指導者の持つ影響力を自覚しましょう。子どもたちの安心・安全・幸せを守るための環境づくりを考えて、指導者として行動していきましょうと語られました。

セーフガーディングワークショップ開催については、加盟の連盟WOGにご相談ください。



真剣な眼差しで講義を受ける参加者たち



3〜4人に分かれてのグループワーク



グループの結果を他グループが見て意見交換

FC東京 俵積田 晃太 選手インタビュー

「FC東京でJ1優勝を果たし、日本代表に定着したい」

ワールドカップ予選で日本代表デビューを果たし、E-1でも活躍、FC東京やJリーグの枠組みを超え、東京のプレーヤーを代表する存在へと進化しつつある俵積田晃太選手。サッカー本来の楽しさや面白さを伝えてくれる「タワラ」のこれからについて訊いた。

日本代表で自分の強みを活かしたプレーが出来た

——6月のワールドカップアジア最終予選で初めて日本代表メンバーに選出されました。その時の気持ちは。



日本代表初選出で初先発となったオーストラリア戦

それまでずっと年代別も含めて代表に選ばれてこなかったのが、初めて選ばれてすごく嬉しい気持ちがありました。発表当日は、練習前のミーティングで、強化部のスタッフから選出の報告を受けて驚いた記憶があります。トップチーム昇格が決まった時と同じくらい大きな驚きでした。

——日本代表では長友佑都選手や渡辺剛選手など、FC東京のチームメイトやOBと一緒にでした。

楽しかったですし、みなさんが話しかけやすく接してくれたので、すごくやりやすかったです。知っている選手が誰もいないより良かったです。一人部屋だったのでそこまで一緒にいたわけではなかったですが、代表チーム内でのルールについて色々聞かせてもらったり、話しかけてくれたりしてくれましたね。

——国内組としての選出でしたが。

Jリーグでどれだけインパクトを出せるかということが、すごく代表に繋がるのかなと。実際に国内からの招集は少ないので難しくはあると思いますが、可能性はあるのではと思います。

——それこそヨーロッパ組のようなインパクトをJ1リーグでプレーし見せられたからこそ今回の選出なのでは。

そうですね、代表でも練習の時点から決まっていたわけではなかったし、自分の特長というものをしっかりプレー出来ていた。自分の中ではそういう感触があって、Jリーグも負けていないぞという部分は少しは出せていたと思います。

——日本代表初選出で初先発となった試合は、アジア最終予選のなかでも一番のオーストラリア代表戦でした。どんな気持ちでしたか。

オーストラリアとの試合で先発を任せられ驚いた気持ちが大きかったですし、心理的にすごくプレッシャーもありました。でもそれがすごくいい経験になったと思います。

先発の11人に選ばれる責任はJリーグでも感じますが、日本代表ということもあってその重さはより一層感じましたし、自分は日本代表の一員なんだという自覚を感じさせてもらいました。

——やはり国を背負って闘う重さ、日本で11人しかそのピッチに立っていないという重みは、その場に立ってみたいとわからない。

そうですね、選ばれてみたいとわからない大きなプレッシャーというものがありますし、それを小さい頃から見えてきて想像していた部分もあったんですけど、自分も実際にピッチに立ってみて「ああ、こういうことなんだな」ということを感じました。

——オーストラリア代表戦のあと、すぐ次の試合であるインドネシア代表戦で、今度は途中出場ですが再び出番が回ってきました。この日の6点目で、俵積田選手はほぼアシストといったプレーを見せてくれました。左サイドでタテに仕掛け、相手のディフェンダーを振り切り、深いところまで進出してからマイナス方向へパス、中村敬斗選手のシュートがこぼれたところから細谷選手が決める結果となりました。得点に絡んだことで、より自信が深まったのでは。

そうですね。代表の試合でああいうプレーが出来たということは、自分自身にとっても、すごく大きな意味があったと思います。代表に選ばれてもなかなか自分の特長を出せない選手も多いなかで、そういう普段Jリーグでやっているような、自分の強みを活かしたプレーが出来たということはすごく良かったなと思います。

——その後EAFF E-1サッカー選手権でも選出され、日本代表のグループにしっかりと食い込んできた感があります。同じ左サイドのポジションでライバルとなるだろう三笥薫選手や中村敬斗選手に優っていくために、今考えているのはどんなことですか。

三笥選手や中村選手は海外で、より高いレベルで揉まれている選手の方たちです。そう考えると、いつも通りの練習を繰り返しているだけではダメだと思うし、日々の練習から意識を上げていったほうがいいんじゃないかなと思います。自分の心がけひとつで練習の質が高くなり、より伸びていけると思うので。



FC東京での日々の練習



——日頃の活動ということでは、今年一番のインパクトはやはり2025明治安田J1リーグ第12節、国立競技場で開催されたガンバ大阪戦での70メートルのドリブルからのゴールだと思いますが、あれが理想だったのでしょうか。

いや、あそこまでドリブルしなくていいと思います。ただ、個人で打開出来るということはチームとしても大きいことでしょうし、それがガンバ戦のようにゴールが決まるところまで行くのであれば、もちろんよりすごいことだなとは思いますが、やはりウイングというポジションでチャンスを作る機会が現代のサッカーでは多いので、自分のところでそのチャンスをもっと多く作っていったらと思っています。

自分がサッカー選手になることを夢見てずっと取り組んできたからこそ、今がある

——サッカーを始めた頃から育成年代まで、ドリブルが好きだったのでしょうか。

そうですね、最初からドリブルが好きでした。アカデミーの指導者の方たちもドリブルのことにに関しては全然否定しなかったですし、伸びのびとプレーをさせてくれたからこそ、今の自分があるのかなと思います。FC東京U-15むさしでは「周りは気にするな」ということをよく言われました。そのあと昇格したFC東京U-18は、それぞれが自分の武器を持つ、恐らくどのクラブにも勝てるような個が優れたメンバーが揃っていて、それぞれが個で戦うようなチームでした。1対1をやっても、個の部分のレベルがより高いと、自分の個もよく伸びる。そこがよかったと思います。

FC 東京 試合スケジュール

2025明治安田 J1 リーグ第35節			
10/25 (土)	14:00 Kick off		
	vs ファジアーノ岡山	味の素スタジアム	
2025 明治安田 J1 リーグ第 36 節			
11/9 (日)	14:00 Kick off		
	vs FC 町田ゼルビア	国立競技場	
天皇杯準決勝			
11/16 (日)	13:10 Kick off		
	vs FC 町田ゼルビア	国立競技場	
2025 明治安田 J1 リーグ第 38 節			
12/6 (土)	14:00 Kick off		
	vs アルビレックス新潟	味の素スタジアム	

※詳細につきましては、FC東京HPをご覧ください
※2025明治安田J1リーグは東京開催ゲームのみ記載



2018東京国際ユースU-14大会に出場した(前列一番右)

——プロとなってからのここまでの成長の度合いはいかがでしたか。

プロ1年目の最初のキャンプの段階では全く完成されていない状態だったと思います。常に壁を乗り越え続けてきたという感じがですね。一つひとつ、その壁と向き合いながらやらなきゃいけないと思いますし、まずその壁が本当に乗り越えるべき壁なのかどうかも見極めなきゃいけない。常に自分自身をよく見つめ直しながらやっていきたいと考えています。

——満足した瞬間はありますか。

それはないですね。自分はずっと成功している人というのは、見たことがないです。だから、もがき続けるのが正解じゃないかなとは思っています。

——いまは有名になり、それこそ東京中のプレーヤーに慕われるような存在となってきましたが、現在の自身をどう受け止めていますか。

すごく嬉しいことだとは思いますが、慕われることがずっと自分の夢だったかと言われればそうではないですし、自分がサッカー選手になることを夢見teずっと取り組んできたからこそ、自ずとこういう風に扱っていただけて話す立場になってきたと思うんです。ですので、東京で今サッカーを頑張っている人たちにもそれぞれの路を目指して、大きな夢を掲げて頑張ってもらいたいです。



自身をよく見つめながらの練習

——現時点で目標にしているものは。

ずっと東京でプレーしてきたので、FC東京でJ1リーグ優勝することを目標にしてきました。まずそれを達成したいですし、個人としてはもっと上のレベルに行きたいと思っているので、代表定着を目標にしています。

PROFILE

俵積田 晃太 (Kota TAWARATSUMIDA)



2004年5月14日生まれ。ARTE八王子FCジュニアでサッカーを始め、FC東京U-15むさし、FC東京U-18でプレー。トップチームに昇格した初年度である2023年2月26日に行われた明治安田生命J1リーグ第2節柏レイソル戦でJリーグデビューを果たした。2025年5月23日、同年6月に行われるワールドカップアジア最終予選に臨む日本代表に初招集。オーストラリア代表戦でA代表初キャップを記録すると続くインドネシア代表戦にも出場した。J1リーグでは2025年7月末現在で通算5得点。ポジションはMFで主に左ウイングを得意とする。



法政大学が明治大学を破り、第11回(2006年)大会以来3度目の優勝を果たす 第30回東京都サッカートーナメント



優勝カップを掲げて、喜びに沸く法政大学の選手たち

法政大学(関東大学リーグ2部)が2-1で明治大学(関東大学リーグ1部)を破り、第11回(2006年)大会以来3度目の優勝に輝いた。ピッチでは熱戦が繰り広げられ、観客は目が離せない展開にくぎ付けとなり、試合終了後には本大会を盛り上げてくれた両チームに観客から盛大な拍手が降り注いだ。

主催:(公財)東京都サッカー協会
日時:2025年5月10日(土)

共催:東京新聞、共同通信社
会場:味の素フィールド西が丘

背後への狙いで主導権を握り、フィニッシュの質で違いを生む

勝利した法政大学の柳沢将之監督は「このチームを立ち上げた時に天皇杯に出場すること、選手たちもJリーグチームと戦いたいと話していました。また素晴らしい決勝の舞台でプレーすることは滅多に経験できることではないので選手にとって良い経験になりました」と振り返った。

両チームが4-4-2の布陣でスタート。法政大学は、センターバックとゴールキーパーを使った3枚回しでビルドアップを図るなか、明治大学は、出足の鋭いプレッシングでインターセプトし、敵陣深くからショートカウンターを仕掛ける。ボールを大切に作るチームにありがちな場面だったが、それを凌ぐと法政大学がスコアを動かした。「背後への狙い」を明確にすると8分、右サイドをロングボールで突きFW小湊絆が一旦下げ、MF松村晃助がクロスをゴール前に送る。逆サイドからニアに走り込んできたMF小池直矢が値千金となるヘディングシュートを突き刺し先制点をものにした。

「あの位置に走り込むのは決まり事でもあったので勢いよく飛び込み思った通りのボールが来たので頭で合わせることができました」(小池)。一歩前に出た法政大学は、さらに勢いを加速させる。プレスをいなしながら最終ラインに長いボールを送り込む。FW相澤デイビッドとFW小湊の強力2トップが、明治大学のセンターバック2枚と1対1の状況になるよう周りがサポート。そして中盤がセカンドボールを回収し、二次・三次攻撃へとつないでいく。

23分には再びMF松村が右サイドを突破し、中央にグラウンダーのクロスを送るとFW相澤が相手ディフェンダーの死角に入り右足で流し込み貴重な追加点を挙げた。「松村は技術が高い選手です。自分が動き出したボールが来ることは分かっていたので信頼して動き出しましたし、あとは決めるだけでした」(相澤)。

法政大学にとって明治大学は、関東大学サッカーリーグではカテゴリーが上。それでも柳沢監督は「同じ大学生との対決で負けてはダメ。自分たちは自分たちのサッカーを



攻撃の核となった法政大学の相澤選手



3度目の優勝を成し遂げた法政大学



後半反撃も優勝に届かなかった明治大学

試合結果

第30回東京都サッカートーナメント決勝

明治大学 1-2 法政大学

0 (前半) 2
1 (後半) 0

得点者: 8分 小池 直矢 (法政大学)
23分 相澤 デイビッド (法政大学)
47分 林 晴己 (明治大学)

信じてプレーするだけ」と相手に関係なく、自分たちのサッカーを体現することを求めた。

2-0でハーフタイムを迎えると、明治大学は後半頭から3枚替えで巻き返しを図る。47分、ロングスローのこぼれ球を競りにいった明治大学FW林晴己がペナルティーエリアでファールを受けPKが与えられると、FW林が冷静に決め切り1点差とした。

その後、54分には左サイドに流れたFW相澤にロングパスが届くと、ペナルティーエリア内から右足を振ったが、明治大学GK藤井陽登がセーブし3点目を阻んだ。1点のビハインドを追いかける紫紺のチームは、人数をかけ前に行くことで圧力をかけ、相手を押し込むも法政大学の体を張ったディフェンスを最後まで崩せずタイムアップの笛が鳴った。

主将のDF薬師田滯は「最後まで粘り強く戦えましたし、自分たちの展開でサッカーをすれば勝てると信じていました」と勝因を口にすると、橙色のスタンドを見渡しながら「応援してくれた後輩や同級生、見に来てくれたサポーターや保護者のおかげです」と感謝の言葉を述べ大きな笑顔を見せた。

明治大学は前半の2失点が最後まで響く

優勝まであと一歩届かなかった明治大学。前半の2失点が非常に悔やまれる。池上寿之監督は「クオリティの差が出てしまった。後半に1点を返し、もう1点というところで相手に守られたというよりも、うちのクオリティ不足。相手が枠に入れて、うちが枠に入れられなかった。それだけだと思います」と肩を落とした。

後半は選手交代や形を変えながらゴールを狙ったが、法政大学の壁を崩すことができず涙を吞んだ。終わってみればシュート数は明治大学の3本に対し、法政大学は10本を記録。良い守備からリズムを作り良い攻撃に繋がられてしまった印象だ。

主将のMF島野怜は「これが今の実力。東京都でも絶対的存在になるため現実を受け入れ前に進みたい」と唇を噛んだ。



中盤で競り合う、明治大学の小林選手

東京国際ユース（U-14）サッカー大会

「東京国際ユース（U-14）サッカー大会」が5月4日から6日にかけてJヴィレッジで開催された。同大会は「海外の強豪チームとの試合を通じたジュニアユース世代（14歳以下）の選手の競技力向上と相互理解、被災地との交流」を目的として2008年から行われており、今年が15回目の開催となった。

主催：東京都、（公財）東京都スポーツ文化事業団、（公財）東京都サッカー協会

後援：（公財）日本サッカー協会、（公財）日本プロサッカーリーグ、（株）Jヴィレッジ、福島県、福島県教育委員会、広野町、楡葉町



ミゲル選手（サンパウロFC）の宣誓



アイスブレイクにチャレンジしている様子



アイスブレイク後に笑顔で記念撮影

アイスブレイクで文化の壁を超えて心通わすひととき

東京都からは前年に続き、東京都トレセン、東京都中体連、FC東京、東京ヴェルディの4チームが参加。また、招待チームとして岩手県トレセン、宮城県トレセン、福島県トレセン、茨城県トレセンに加え、北京、カイロ、ニューサウスウェールズの選抜チームや前回王者のブラジルの名門・サンパウロFCも出場した。

試合の前日には、Jヴィレッジ内の全天候型練習場に全チームが一堂に会し、開会式が行われた。開会式では、小池東京都知事からのビデオメッセージが上映され、初戦の対戦カードによるフォトセッションも催された。選手宣誓は、2024年大会優勝チームであるサンパウロFCの主将、ミゲル選手が担当。全192選手を代表する立場として、誇りと責任感がにじみ出る表情で力強く誓ってくれた。

開会式後には、本大会では初めての試みとして、全チームを4つのグループに分けてアイスブレイクが実施された。異なる言語や文化を持つ選手たちがサッカーを通じて集まる中、言葉を使わずに楽しめる、簡単にわかりやすいアクティビティやゲームによって緊張をほぐし、距離を縮めることを目的として実施された。最初は遠慮がちだった選手たちも、アイスブレイクを通して共感が生まれ、最後には緊張も解け、和気あいあいとした雰囲気の中で笑顔があふれた。

ブラジル勢が大会3連覇を飾る

東京勢の1次ラウンドは、FC東京が1勝1分、東京都トレセン、東京ヴェルディは1勝1敗で、東京都中体連は1分1敗だった。FC東京は準決勝でサンパウロFCに0-2で敗れたが、最終日に行われた岩手県トレセンとの3位決定戦では攻撃力を発揮した。試合開始早々の1分、DF多々野舜太の左からのクロスを受けたDF岩崎隼人がゴール前で合わせて先制。6分にはDF多々野のパスを受けたDF岩崎が落ち着いて流し込み2点目。11分にはMF佐藤直紀の右からのコーナーキックをDF棟石雄が頭で合わせて3点目。18分にはショートカウンターからDF多々野がドリブルでペナルティエリアに侵入し、落ち着いて流し込んで4点目を決めた。

後半に入り28分にはFW原陸斗の折り返しを中央でMF沢山怜生が合わせて5点目。34分にはDF多々野がディフェンスラインの裏を突いてGKと1対1になり、冷静にかわして6点目。44分にはMF沢山のコーナーキックから相手GKが弾いたところをMF佐藤が押し込んで7点目を決めた。守備でも岩手県トレセンにシュートを1本も打たせず無失点。7-0で岩手県トレセンを圧倒し、3位で大会を終えた。

決勝は2年連続でサンパウロFCと宮城県トレセンのカードとなった。サンパウロFCはスコアレスの32分、自陣で相手ボールを奪い返しDFルカスの左足スルーパスに反応し、ゴール前に抜け出したFWガブリエルが先制点を奪った。1点を追う宮城県トレセンは37分、MF氏家累（仙台Jrユース）のフリーキックからMF寺崎陽澄（EL BRANCA SENDAI ARAHAMA）がヘディングで合わせたが決めきれず。するとサンパウロFCは47分にMFミゲルのシュートのこぼれ球をFWアレクサンドロが押し込んだ。このまま2-0で勝利しブラジル勢が大会3連覇を飾った。

■順位表

優勝	サンパウロFC（サンパウロ）
準優勝	宮城県トレセン
3位	FC東京
4位	岩手県トレセン
5位	東京ヴェルディ
6位	東京都トレセン
7位	カイロ
8位	北京
9位	東京都中体連
10位	福島県トレセン
11位	茨城県トレセン
12位	ニューサウスウェールズ
フェアプレー賞	岩手県トレセン



3位になったFC東京



1点目を決めたガブリエル選手（サンパウロFC）



島しょチームも参加 JFA バーモントカップ 第35回全日本U-12フットサル選手権大会 東京都大会

JFA バーモントカップ 第35回全日本U-12フットサル選手権大会 東京都大会が5月18日から7月6日にかけてミズノフットサルプラザ味の素スタジアム等で開催された。95チームがエントリーした今大会には本土のチームだけでなく、島しょから八丈島サッカークラブ、FC三宅の2チームが参加した。5月18日の2チームの試合レポートをお届けする。



同点ゴールを決めた菊池選手



ゴールを喜ぶ八丈島SCの選手たち



最後の瞬間まで全力プレー



最後までゴールを目指した櫻田選手

初の公式大会でラウンド32に進出した 八丈島サッカークラブ



八丈島SCと大賀郷FCの選抜の八丈島サッカークラブ

八丈島SCと大賀郷FCの選抜チームとしてエントリーした八丈島サッカークラブは1回戦でFutsal Club BUBBLE U-12と対戦。3分、小宮山正弥が決めて先制すると、直後には相手の抜け出しに対しGK沖山斗勝が前に出て身体を張ってストップした。第1ピリオドに失点。11分・12分にも連続得点を奪われて一時は2点差をつけられたが、13分に菊池圭介主将が決めて再び1点差に迫ると、15分には菊池がキーパーとの1対1を冷静に沈めて同点とした。勝負の行方はPK戦へ。後攻の八丈島は1人が失敗して迎えた相手の3人目を沖山がストップ。両チーム6人がキックをし、5-4で勝利、初戦を飾った。リラーシオFCとの2回戦も開始2分に江口慶次朗が決めて先制したが、8分に失点。2試合連続で追いつかれる状況でも10分、小宮山のゴールで勝ち越すと、13分には菊池が右足を振り抜いて追加点。その後1点を返されたが、19分、自陣からの速攻から佐藤湊が決めて4-2で勝利した。これが公式大会初出場だったという中でラウンド32に進んだ。

初戦敗退も島しょの仲間たちの前で2得点 FC三宅



4〜6年生で構成されたFC三宅

23年大会でベスト32に進出しているFC三宅は1回戦で滝一SCと激突。立ち上がりの2、3分と連続失点を喫すると、5分に小島潤也のゴールで1点を返したが、第1ピリオド終了前にも1点を奪われ、1-3で試合を折り返す。それでもエンドが変わり、同じ島しょ勢として参加した八丈島

サッカークラブが2回戦を終えて応援に加わった第2ピリオドは、パスを回しながら相手サイドに迫るプレー。開始1分には櫻田凌大主将が島の仲間の目の前で1点を返す。16、17分と失点して引き離されたが、最後の瞬間まで諦めずに攻め、19分に櫻田が抜け出して右足で流し込んで意地を見せた。

八丈島サッカークラブは、6月15日の3回戦で東京都大会で準優勝のフウガドールすみだエッグスと対戦し、残念ながら敗退した。

都大会優勝は、FC TORIANELLO Machida。8月15日〜17日に駒沢体育館・屋内球技場で開催された全国大会では準優勝という堂々たる成績を収めた。全国大会のベストプレーヤー賞には、東海林貫大と浜崎琉の2名が選出され、チームはフェアプレー賞も受賞した。

COMMENT

玉置大海監督 / 八丈島サッカークラブ



「今回、離島では八丈島と三宅島が出場していますが、八丈島が公式戦登録したのは初めてです。子供たちには常に夢を持ってプレーしてほしいという気持ちがありました。その中でバーモントカップという大きな大会に参加することができ、島の子ども達にとっても大きな希望となりました。今回は天気が悪く、急遽大会前々日に上京する事になり、離島というハンデの中、このような試練も乗り越えながら戦い抜いた子ども達にとって、とてもいい経験になりました。」

菊池圭介主将 / 八丈島サッカークラブ

「島にある2チームの5、6年生が集まってこの大会に臨んだ中で、自分は6年で主将なので、どんどんシュートを打って、点を決めて活躍することを目指していました。チームのために点を決めることができて良かったです。この経験を活かしてこの後の試合も頑張りたいです。」

佐藤大地 / 八丈島サッカークラブ

「後ろからパスを出したり、仲間のカバーもできて良かったと思います。(今回初めてバーモントカップに参加してみても)すごい強いチームが多かったです。(各チームに)いろいろな作戦もあると思うので、そういうところを吸収して島に帰ってまた成長したいです。」

菊地健一郎代表 / FC三宅



「良いところ悪いところもしっかり出て次に繋がる試合だったと思います。離島で、対外試合の経験が少ないですが、そういうのを埋める練習を積んできているつもりです。今日も6年生と、5年生全員が来ている状況です。なかなか同じレベルでの紅白戦さえままならないような状態の中、これだけ多くのチームがいる大会でプレーできたのは良い経験になりました。」

櫻田凌大主将 / FC三宅

「最初の方に点を取られてみんなきつかったんですけど、自分たちが良い攻撃やパス回しをして、ゴールを取れたのは良かったと思います。八丈島とは日頃から話したり、仲が良いチームなので、応援したら応援してくれるみたいな感じで、それが嬉しくて、頑張れました。」

櫻田さん(保護者) / FC三宅

「まず島から出てきてここで試合ができることが経験。これからもサッカーを続けてほしいし、こっち(本土)ではうちはアウェイな中で、今日も八丈島の子がたくさん応援してくれて、そういう島同士の繋がりがだったり、子供たち同士の繋がりを大事にしてほしいと思います。」

少年男子、少年女子が本大会出場を決める

第79回国民スポーツ大会関東ブロック大会

期 日：2025年8月12日（火）～2025年8月17日（日）

主 催：（公財）日本スポーツ協会、群馬県、関東ブロック各都県、関東ブロック各都県スポーツ協会、（一社）関東サッカー協会、群馬県会場地市町

会 場：コーエィ前橋フットボールセンター

「第79回国民スポーツ大会関東ブロック大会」が群馬県前橋市で行われた。本年は、少年男子、少年女子、成年男子のカテゴリーが開催され、東京都代表は少年男子、少年女子が10月に滋賀県で開催される「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ2025」への出場を決めた。各カテゴリーの戦いぶりを振り返る。

少年男子



栃木県に逆転勝利し、本大会出場を決めた少年男子

少年女子



2年ぶりの本大会出場を決めた少年女子

逆転勝利で本大会出場の切符を掴み取る



途中出場で逆転ゴールを決めた川村選手

試合結果

栃木県 1-2 東京都

得点者：51分 オウンゴール(栃木県)
54分 川村求(東京都)
70分 川村求(東京都)

少年男子は栃木県に2-1で逆転勝利し、本大会の出場を決めた。前半は攻め込みながら得点できず、後半にオウンゴールで先制を許すも、FW川村求(川崎F U-18)を投入すると2得点を挙げた大活躍を見せた。1点目は、左サイドでFW城秀人(FC東京U-18)からのパスを受けると、ドリブルから右足を一闪。ボールはゴール左隅に吸い込まれ、同点ゴール。さらに終了間際、ゴール正面からのフリーキックのこぼれ球をジャンピングボレーで合わせ、これが決勝点となった。太田巨人監督は「優勝するというのもチーム目標ですし、これから活躍するような選手を輩出したい。まずは一安心ですが、まだまだこれからです」と語る。MF梶山蓮翔(FC東京U-18)は「本大会で優勝し、成長したい」と更なる活躍を誓った。

攻めの姿勢で3得点。本大会出場を決める

少年女子は合宿での準備を活かし、2年ぶりに本大会出場を決めた。1回戦ではFW野崎 バイル 舞(東京BARUS FC)とMF米倉和心(東京Vメニーナ)のゴールで茨城県に2-0で勝利。2回戦では、神奈川県と対戦し、DF宮崎心菜(ASエルフェン埼玉U-18)とMF米倉の得点でリード。MF中原心愛(浦和レッズレディースユース)が「3点目を取る気持ちが強かった」とダメ押しの3点目を決めて勝利した。主将のMF中原は合宿で攻めの姿勢が育ったと語り、MF三浦葵(大宮VENTUS U18)は「本大会では優勝を目指して、チーム一丸となって頑張りたい」と意気込んだ。



中原選手が3点目を決めて喜び

試合結果

1回戦

東京都 2-0 茨城県

得点者：35分+3分 野崎バイル舞(東京都)
70+2分 米倉和心(東京都)

2回戦

神奈川県 1-3 東京都

得点者：7分 宮崎心菜(東京都)
35+2分 米倉和心(東京都)
59分 矢野朝和子(神奈川県)
64分 中原心愛(東京都)

成年男子



初戦で茨城県に敗れ、本大会出場とはならなかった成年男子

団結して勝利を目指すも初戦で敗れる

成年男子は、2018年以来的本大会出場を目指すも、初戦で茨城県に1-4で敗れた。前半に連続失点し、後半にFW田口光樹(横河武蔵野FC)の得点で一時1点差に迫るも、再び失点を重ねて敗退。黒木文紀監督は「順調に仕上がっていただけに悔しい」と語った。チームは都内の多様なカテゴリーから選手を集め、団結して戦った。FW田口は「JFLから東京都1部の選手がいる中で、カテゴリーは違えど、サッカーが好きというだけでここまでチームが完成するのは、素晴らしいと感じた」と振り返った。今後はそれぞれのチームに戻り、この経験を活かす。

試合結果

東京都 1-4 茨城県

得点者：6分 千葉颯斗(茨城県)
12分 細谷伶大(茨城県)
46分 田口光樹(東京都)
49分 中村綱太(茨城県)
67分 石川裕雅(茨城県)



育成一貫の哲学と地域とともに歩むクラブの挑戦

スフィーダ世田谷 FC 川嶋珠生監督インタビュー

女子サッカークラブ「スフィーダ世田谷 FC」が、新たな局面を迎えている。2001年の創設以来、“挑戦”の名にふさわしい歩みを重ね、なでしこリーグ1部の優勝経験を誇るまでに成長したクラブは、2025年から創設期選手である川嶋珠生氏を新監督に迎えた。地域とともに歩むクラブの挑戦を川嶋珠生監督に聞いた。

「育成年代からの一貫した指導」がスフィーダらしさ



現役時代の川嶋監督

東京都世田谷区を拠点に活動する女子サッカークラブ「スフィーダ世田谷FC」。クラブ名の“スフィーダ”はイタリア語で「挑戦」を意味し、その言葉通り、2001年の創設以来、着実にステップアップを重ねてきた。2011年にチャレンジリーグEASTへ昇格し、2020年には、なでしこリーグ2部で初優勝。そして翌年からは1部に進出し、2022年には

早くも1部優勝を果たすなど、その歩みはまさに「挑戦」の歴史だ。

2025年からは川嶋珠生氏が監督に就任。川嶋監督はクラブの記念すべき1期生で、アカデミー時代は中学・高校の6年間、主将を務めた。その後、進学した筑波大学では4年次に副主将としてインカレ優勝も経験。大学卒業とともにスフィーダに戻り、2014年を最後に現役引退。その後U-13、14、15、ユースとアカデミーの指導者を歴任。2022年からはトップチームのコーチを務めた後、監督に就任した。「それぞれ、みんなの持ち味を発揮してもらって、それがひとつの集合体になればいいなと考えていて、そういうチーム作りをしたいと思っています」と話す。

アカデミー出身で、育成年代の指導を経験してきた川嶋監督が考えるスフィーダらしさとは、「育成年代からの一貫した指導」だ。

「我々は育成型クラブとして大きな特徴を持っているので、それを最大限発揮するうえで、一貫した指導というものは本当に大きな特徴。よくあるのは、カテゴリーが上がるごとに各コーチがそれぞれ異なる方針で指導している状態になり選手たちが混乱してしまうケースです。そういったことが起きないように取り組んでいます。中学生とトップチームがやっていることがほぼ同じに



戦術を受けピッチへ向かう

なっているのは、ものすごく良い状態だと思っています」

現在のトップチームは、アカデミー出身者が半数近くを占める。ジュニアユースからユース、そしてトップチームへとつながる明確な道が整備され、同じ指導哲学と戦術の中で選手が成長できる環境は、スフィーダならではの大きな強みとなっている。



戦術を伝えピッチへ送り出す



トップチームの監督に就任した1期生の川嶋珠生監督

世田谷の街に根ざした活動を行う

「スフィーダを通じて世田谷をもっと楽しくする」ことを掲げ、地域の総合型スポーツクラブとしての活動にも力を入れている。「ライフ」としてのママさんサッカーや、ウォーキングサッカー、パラスポーツ体験、地域の幼稚園や小学校への巡回指導も行っている。さらに、世田谷区内のスポーツイベントや地域祭りなどへの参加も積極的で、クラブ主催の「スフィーダ大蔵まつり」(8月24日・世田谷区立総合運動場)は今回で3回目を迎えた。トップチームと世田谷区O-50選抜とのスペシャルマッチや緑日も行われ、今年も大盛況のうちに幕を閉じた。また、広報も務める川嶋監督やスタッフがアイデアを出し合い、グラウンドの外では、保護犬の譲渡会やスタンプラリーなどを企画。「サッカーが好きな子たちだけでなく、『ちょっと今週行ってみよう』と思えるような、小さい子たちがたくさんいる、アットホームな形で、安心して子供を遊ばせられる空間」を目指している。

今後の展望として、川嶋監督は「地元・世田谷区での試合を少しでも増やしていくこと」、そして「地域のシンボルになるというビジョンをもっと広げていきたい。ゆくゆくは世田谷区という行政としっかり手を組んで、さまざまな取り組みをしていきたいというのが、2つの大きな夢です」と語る。

世田谷の街に根ざし、挑戦の歴史を刻み続けるスフィーダ世田谷FC。地域とともに歩むその挑戦に、今後も注目したい。

PROFILE

川嶋 珠生 (かわしま たまひ)



1988年6月6日生まれ(東京都出身)。現役時代はスフィーダ世田谷FCアカデミー、筑波大学を経てスフィーダ世田谷FCのトップチームでプレー。引退後の2015年からスフィーダ世田谷FC U-14監督、ユース監督、コーチなど育成年代の指導。2022年からトップチームのコーチを務めて、2025年からトップチームの監督に就任した。
JFA Aジェネラルライセンス(AFC-JFA Pro-Diploma Course for Asian Elite Female Coaches受講中)

TOPICS

1月11日(土)
JFA

優勝・日テレ・東京ヴェルディメニナ
第28回全日本U-18女子サッカー選手権大会

決勝は、10回の優勝を誇る日テレ・東京ヴェルディメニナと初の決勝進出となるINAC神戸レオネッサの対戦。神戸が主導権を握るも、19分に鈴木温子のクロスを味のボールでメニナが先制。さらにPKで追加点を奪取。神戸は1点を返すが、後半に須長穂乃果が突き放し3-1でメニナが勝利。フェアプレー賞も受賞した。

3月9日(日)
JFA

優勝・小平サッカークラブ
第36回O-40女子サッカーオープン大会

Jヴィレッジにて開催された決勝は小平サッカークラブとSOCCIOS FC VENGGAの東京チーム同士の対戦となった。試合は前半の15分に小平のF.P小楠志乃がゴールを決めると、この1点を守り切り、小平が優勝を決めた。

3月22日(土)
JFA

優勝・しながわシティ
第30回全日本フットサル選手権大会

決勝は、しながわシティと立川アスレティックFCの東京対戦。カイオの先制点でしながわが先行するも、立川が追いつき1-1。再びカイオが押し込みリード。さらに笠とカイオが加点し、カイオはフットリックスを達成。立川も1点を返すが、しながわの平田が終了間際にゴールを決めて5-2で勝利し、4年ぶり2度目の優勝を果たした。

8月3日(日)
JFA

優勝・フウガドールすみだファルコンズ
第12回全日本U-18フットサル選手権大会

8月3日に決勝と3位決定戦を実施。3位決定戦では神奈川の東急スレイエスFCに東京のベスカドロー町田が1-2で惜敗。決勝はフウガドールすみだファルコンズと宮城の聖和学園が対戦。すみだが先制後、ゴール前に詰めていた片岡が冷静にシュートを決め2点差としたも聖和学園が連続で得点し追いつく。第1ピリオド終了間際にすみだが勝ち越し、そのまま3-2で逃げ切り3連覇を達成。フェアプレー賞も受賞した。

東京 2025 デフリンピック

正式名称：第25回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025
会場情報：東京ほか福島、静岡で開催

開催期間：2025年11月15日(土)から26日(水)
実施競技数：21競技 競技観戦無料

大会サイト： <https://deaflympics2025-games.jp/#gsc.tab=0>

 :  https://www.instagram.com/deaflympics2025_games/

 :  <https://www.youtube.com/@TOKYO2025DEAFLYMPICS>

 :  https://x.com/deaf2025_games

デフリンピックとは

デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。

デフ (Deaf) とは、英語で「耳がきこえない」という意味です。デフリンピックは国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」です。国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際スポーツ大会です。第1回は、1924年にフランスのパリで開催され、東京2025デフリンピックは、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります。

国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴です。

デフリンピックには、①「補聴器」などを外した状態で、きこえる一番小さな音が55dB (※) を超えており、②各国の「ろう者スポーツ協会」に登録されている選手で、記録・出場条件を満たしている人が参加できます。

(※・dBは音の大きさを表し、数字が大きいほど音が大きい •55dBはふつうの声での会話がきこえない程度)

東京 2025 デフリンピックサッカー出場国

男子：アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、フランス、英国、イラン・イスラム共和国、イタリア、日本、大韓民国、メキシコ、セネガル、トルコ、ウクライナ、アメリカ合衆国、ウズベキスタン

女子：オーストラリア、ブラジル、英国、日本、ケニア、アメリカ合衆国

東京 2025 デフリンピックサッカー試合スケジュール

試合会場：J ヴィレッジ *試合スケジュールは、9月4日時点

予選グループ 組合せ 男子

GROUP A	GROUP B	GROUP C	GROUP D
A1 日本 A2 英国 A3 イタリア A4 メキシコ	B1 フランス B2 ブラジル B3 イラン・イスラム共和国 B4 ウズベキスタン	C1 トルコ C2 オーストラリア C3 アルゼンチン C4 大韓民国	D1 ウクライナ D2 セネガル D3 アメリカ合衆国



日本チーム予選グループステージ

11月14日(金) 12:00~ 日本 vs 英国
11月16日(日) 16:30~ 日本 vs イタリア
11月18日(火) 16:30~ メキシコ vs 日本

予選グループ 組合せ 女子

GROUP A	GROUP B
A1 日本 A2 ケニア A3 ブラジル	B1 アメリカ合衆国 B2 イギリス B3 オーストラリア

日本チーム予選グループステージ

11月15日(土) 12:00~ 日本 vs ケニア
11月19日(水) 12:00~ 日本 vs ブラジル

デフサッカーの紹介

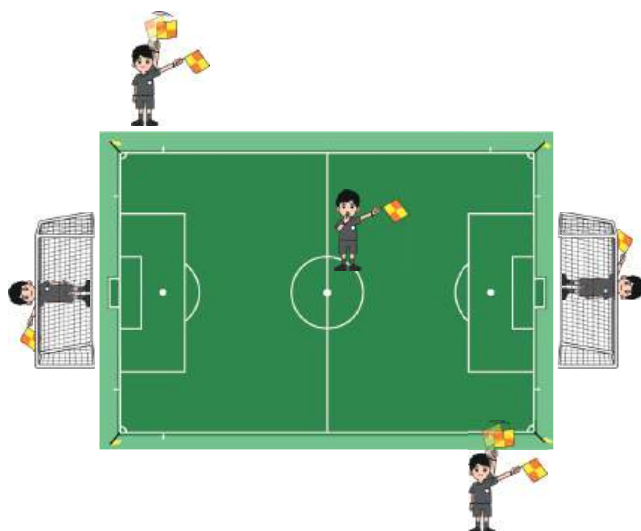
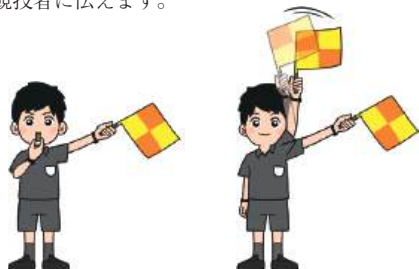
デフサッカーには、ろう者(デフ)サッカーとろう者(デフ)フットサルがあります。東京2025デフリンピック競技の1つであるデフサッカーは、普段目にするサッカーと大きな違いはありません。

【ルール】 人数11人、試合時間前後半45分

【ピッチ】 フルコート

【レフェリー】 主審は、「笛」と「フラッグ」の両方を使用。

デフリンピックサッカー競技では、両ゴール裏に1人ずつ、合計5人のフラッグを持った審判員が、プレーの停止を多方向から競技者に伝えます。





サッカーLIFE

～サッカーファミリーのサッカーライフを紹介～

たくさんの人に支えられている TOKYO FOOTBALL
どのような人がどのように関わっているのか知ってもらいたいそんな思いから生まれました

サッカーライフ 佐藤美佳さん（FC ムサシ コーチ）

お仕事 Q&A

サッカーに興味をもったきっかけは？

私がキャプテン翼のアニメを観ていたこともあり、翼くんや岬くんごっこをしながらボールを蹴っていたこともきっかけのひとつです。子どもに何かスポーツをやらせたいと思った時に長男が興味をもち、そこからです。

FC ムサシに入った経緯は？

PTA 仲間誘いで次男がムサシに入り、別のチームと掛け持ちしていた長男も途中からムサシに入ったことがきっかけです。

チームではどのようなことをしていますか？

10 年ほど在籍しています。主に低学年のサポートをしながら 1 年生の練習に参加し指導をしています。また要請があれば公式戦の審判もしています。

指導で気をつけているポイントは？

サッカー自体は素人なので、はじめは私がリフティングができないことを見せて、大人の私より上手になったと自信を持ってもらえるように工夫しています。技術よりもリスペクトに欠ける言動には気をつけています。



低学年の練習をサポート

チームのスローガンとして「自分を信じて、仲間を信じて」とあります。

個の技術やサッカー技術だけではなく、仲間を助けるという気持ちを育てたい。チームのために「ここで頑張りたい」と思ってくれる子どもたちを育てたいと思っています。

他に女性のコーチはいますか？

今は私だけです。

他のスタッフやコーチ陣とどのように連携をとっていますか？

ボランティアのメインコーチと保護者コーチで指導しているチームです。初めは保護者の方に手伝いをお願いするようにしています。それぞれのコーチのやり方や考え方、指導法があると思いますが、各々が「この子たちにはこのメニューが上達につながるだろう」と考えて指導を行っています。

コーチをしている中で、新たな発見などは？

視野が広がりました。普段お会いすることのない方々と知り合えたことで世界が広がった気がします（笑）。

やりがいを感じる瞬間は？

子ども達が「こんなことができるようになったよ」と報告してくれる時ですね。

現在、3 級審判員の資格をお持ちですが、審判資格を取った経緯は？



JFA C ライセンスコーチ養成講習会
女性コースを受講（前列右）

お母さんコーチの強みはどんな部分ですか？

自分からなるべく保護者の方に話しかけることを意識しています。また、コーチでもパパでもなくママに見せる顔があるので、それに一番近い表情を見られることですね。

目標は？

子ども達が「チームのために仲間のために頑張ろう」と思えるチームにしたいと思っています。



練習後に片付けも担当

プライベート Q&A

普段のお仕事は？

小学校でエデュケーションアシスタント（教員のサポートや児童の学習支援など）をしています。子ども達がリスペクトの気持ちを持って仲間と過ごせる、そういう場に関わりたいと思っています。

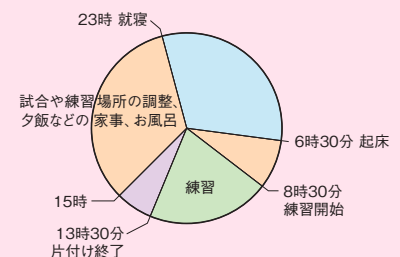
サッカーやフットサルの経験はありますか？

中学はソフトテニス部で、高校はラグビー部のマネージャー、大学では茶道部でした（笑）。

現在保持している資格はありますか？

C ライセンス、3 級審判員、ウェルフェアオフィサージェネラルです。

練習日の 1 日のスケジュールは？



休日の過ごし方は？

土日祝日はチームの練習があります。審判員が足りない場合にはお手伝いに行きます。休日があっても本当に何もしていないんです（笑）。

趣味は？

読書ですね。サッカーの講習会で紹介された本や児童心理の本を読みます。

ご自身にとってサッカーとは。

人間育成の場だと思っています。サッカーは仲間と協力しなければできないスポーツで、一人では成り立ちません。一緒に頑張らないとチームにならないということを子ども達に分かって欲しいですし、それが普段の生活にもつながればと思います。またリスペクトの精神も加わり、周りのチームのことも大事に思っていて欲しいですし、自分が思ったとおりの判定が出なくても審判を尊重する。そういった意味を含めて人間育成だと考えています。

メッセージ

サッカー経験がない私でも C ライセンスや 3 級審判員の資格を取ってサッカーに携わっています。皆さんにお伝えしたいのは、まず気楽にやってみませんか、ということ。今まで見えなかったものも出てくる可能性があります。一人でも多くの方にサッカーに関わって欲しいと思っています。



From the Association

技術委員会から スモールサイドゲーム【前育成・育成～大人】のトリセツを作成しました 

狭いからこそ、もっと成長できる！

「スモールサイドゲーム_SSG」で、東京のサッカーをもっと面白く、強くする

東京都は、日本で一番サッカーを愛する人々が集まる場所です。しかし、誰もが思い切りプレーできる広いグラウンドは、決して多くありません。「場所がない」「人数が集まらない」といった理由で、サッカーを諦めていませんか？ そんな悩みを解決し、「サッカーを愛する全ての人」が、いつでもどこでもサッカーを楽しめるように、東京都サッカー協会は「スモールサイドゲーム」のレコメンデーション（提言）とガイドライン（指針）を作成しました。

スモールサイドゲームとは、少人数、そして狭いピッチで行うミニゲームのこと。この「狭さ」と「少人数」こそが、サッカーの楽しさと上達を飛躍的に高めるキーとなります。

レコメンデーション for Children



20 ページ

ガイドライン for ALL



16 ページ

前育成（5 歳～13 歳）for Children
未来を開く、最適な学び場
5 歳～13 歳の前育成年代は「サッカーの土台」が育つ大切な時期。 ゴールを目指す喜び、守る楽しさ、判断する力やボールタッチの回数が自然と増えるよう、人数・ルール・ゴールサイズは年齢に合った場を作りましょう。 8 対 8、6 対 6、4 対 4 など、柔軟に取り入れることが成長への近道です。

対象	育成年代～大人 for ALL
テーマ	限られたスペースで、無限の成長
詳細	東京には105m×68mの正規グラウンドは多くありません。ですが、スペースが小さくてもサッカーはできます。 14 歳から大人まで、老若男女がプレーしやすい、限られた場所でも本質的に「育つ」「楽しむ」ゲームのスタイル、それがスモールサイドゲームです。

* スモールサイドゲーム

* 東京サッカーの未来

* 育成と楽しさは両立できる

東京都サッカー協会 HP より無料ダウンロードできます



TOKYO Soccer well-being



社会人連盟の今

2025年度より東京都社会人サッカー連盟では、暑熱環境下での活動に一層の注意を払いながら運営を行っております。特に夏季の7月・8月は休止期間とし、選手や関係者の健康と安全を最優先に配慮しています。一方で、11月に開催される「関東社会人サッカー大会」への出場チームを決定しなければならない1部リーグについては、限られた期間で日程を消化する必要があり、スケジュール面での工夫と柔軟な対応が求められています。

近年では暑熱期と考えられる期間が延びる傾向にあり、競技を安全に行うための対策として、水分補給の徹底や体調管理を支える仕組みづくりなど、選手の健康を守るための取り組みについて、各チームへの啓発を進めていかなければならないと考えています。

競技面では、2024年度から初の2県分散開催となった関東社会人サッカー大会において、東京都代表の3チームが出場しました。その中でSHIBUYA CITY FCが優勝（昇格）、EDO ALL UNITEDが準優勝（昇格）を果たし、見事ダブル昇格となりました。これにより2025年度の関東リーグは、全20チーム中8チームが東京都所属チームとなりました。

東京都サッカートーナメントにおいては、その代表を決定する社会人決定戦で関東リーグ所属の南葛SC、東京23FCがJFL所属チームに勝利し、大学チームとの天皇杯出場権を懸けた試合に臨みましたが惜しくも出場はなりませんでした。

その他の取り組みとして東京都リーグ表彰式に彩りを添えるため、新たにバックボードを作成いたしました。今後も表彰式やイベントなどで効果的に活用し、選手やチームの栄誉を一層引き立ててまいります。

加えて、地域貢献活動の一環として、「テント」3張を八王子市へ寄贈いたしました。今回のテントは、八王子市の戸吹スポーツ公園サッカー場での活用を目的とし、2024年11月に河野理事長が現地を訪問し、贈呈式を執り行いました。今後、このテントが大会や練習などで幅広く利用され、地域のスポーツ振興に役立つことを期待しています。

本年度も、安全面と競技力向上の両立を図りながら、東京都代表チームが再び素晴らしい結果を残せるよう取り組んでまいります。

オフィシャルサイト

<https://tokyo-fa.com/>



東京都社会人サッカー連盟

理事

星野 千夏



関東社会人サッカー大会で優勝したSHIBUYA CITY FC



関東社会人サッカー大会で準優勝したEDO ALL UNITED



東京都リーグ表彰式に彩りを添えるため、新たにバックボードを作成

大学サッカーの魅力的な舞台に

2025年度は、東京都と神奈川県のリーグ戦を統合して3年目となり「第3回 関東大学サッカーリーグ戦 東京・神奈川」を開催しています。統合前の東京都大学サッカーリーグは、1968年に当時7部制にまで拡大していた関東大学サッカーリーグの3部以下が都県リーグに再編された際に発足し、以来1990年代にかけて最大期で約50チームが参加するリーグに発展、大学サッカーの裾野を大きく広げてきました。

発足から長らくは8チーム・1回戦総当たりを基本とするリーグ構成としていましたが、2013年にそれまで1回戦制で行っていたリーグ戦を2回戦制に変更、2021年には1部リーグのチーム数を12チームまで拡大しました。これらにより年間の公式戦数が増加したことで、各チームが切磋琢磨して競技力を高められる環境となってきたと思います。

試合数の増加に伴って、連盟および各チームの運営力もより高めていくことが必要となっています。都学連では現在24名の学生幹事が、担当理事や事務局の社会人スタッフのサポートを受けながら、運営の中核を担って主体的に活動しています。年間で約400試合に上る公式戦については、日時や会場の管理・審判員の手配・公式記録の確認・試合結果の公表など、多岐にわたる一連の業務をメンバー間で分担・協力しながら進めています。他に、トーナメント戦決勝の連盟直接運営、リーグ表彰式などのイベントも、学生幹事の創意工夫により意義を高められるよう実施されています。

こうした現在の連盟やリーグ戦の運営は、コロナ禍を含め近年のサッカーを取り巻く環境の変化にも対応しながら、関係各所の多大な支援をいただき改善が図られてきました。未だ課題も多くありますが、関東リーグを目指すに相応しい競技環境を整えることと、卒業後に様々なかたちでサッカー界に貢献できる人材になれるよう学生の主体的な活動を支援することは、大事にすべき視点だと考えています。

東京・神奈川リーグが、参加チームをはじめ大学サッカーに関心を持つ幅広い方々にとって魅力的な舞台であるよう、今後とも連盟として尽力していきたいと思っています。

オフィシャルサイト

<https://www.f-togakuren.com/>



東京都大学サッカー連盟

理事長

赤星 真一



東京都と神奈川県のリーグ戦を統合して3年目となる



リーグ表彰式



現在24名の学生幹事が、運営の中核を担って主体的に活動している

未来を創る、東京が創る。クラブユースの誇りと挑戦

東京都クラブユースサッカー連盟は、単なる育成の場ではありません。ここは、夢を本気で追いかける選手たちが、自らの可能性を切り拓き、仲間とともに高みを目指す育成の最前線です。

誇り高き「クラブ選抜」東京の代表として

かつてU-18クラブ選抜は、東京都のクラブ代表として「東京・ソウルサッカー親善定期戦」に出場。都市同士の国際交流という唯一無二の舞台で、東京のプライドを胸に熱戦を繰り広げました。現在は、U-16・U-17クラブ選抜がその魂を引き継ぎ、日々の研鑽を積みながら、より高いステージへと挑み続けています。

関東最強。U-17クラブ選抜、連覇の偉業

U-17クラブ選抜は、東京・千葉・神奈川による「クラブ選抜対抗戦」で2年連続優勝。プライドと技術をぶつけ合う真剣勝負の中で、東京は他県に勝利しました。この結果は、東京の育成力、組織力、そしてクラブの総合力の高さを如実に物語っています。

次なる舞台は世界。FIFA公認国際大会出場へ

クラブ選抜の視線は、すでに世界を見据えています。現在、FIFA公認国際大会への出場が本格的に検討されており、東京で育った選手たちが、世界の強豪と肩を並べる未来が現実になろうとしています。

U-16も2種選抜の登竜門に

U-16クラブ選抜は、今年から高体連の「地区選抜研修大会」に新たに参戦。この舞台は、2種選抜の選考対象ともなり、クラブ所属の選手でも、努力と結果次第でハイレベルな扉を開ける機会がここにあります。

毎夏、才能が集う「合同セレクション」

東京都内のすべての加盟クラブが参加する「夏の合同セレクション」は、まさに才能の交差点。毎年250名を超える選手がこのチャンスに挑み、次の一步を掴んでいます。Jクラブはもちろん、街クラブの躍進も著しく、各地域のクラブが一丸となって東京のサッカーを底上げしています。クラブという枠にとらわれず、一人ひとりの夢を本気で育てる。まとまりがあり高め合える。それが、東京都クラブユースサッカー連盟の強さです。

ここには、ただの育成ではなく、誇りを持って戦える環境がある。才能を引き出す仕組みがある。未来へ羽ばたく舞台がある。

そして、クラブユースには「東京」という強さがある。

東京都クラブユース サッカー連盟

理事長
西野 泰啓



U-17クラブ選抜対抗戦に出場したメンバー

オフィシャルサイト <https://tokyo-cy.jp/>



女子連盟における ウェルフェア活動について

女子連盟関係の暴力等根絶窓口への申し立ては、一定数であると認識しています。日常より注意喚起を連盟トップ自らが行ってきておりますが、容易には改善されない状況であります。そういった状態を少しでも緩和していくべく一つの取組みとして東京協会のご指導を得て、女子連盟にウェルフェアオフィサー・ジェネラルを設置したのは5年以上前のこととなります。まずは2021年にウェルフェアオフィサー・ジェネラルを2名設置いたしました。そこから2022年には女子連盟の大会役員をやる機会が多いと考えられる常任委員会のメンバー23人をマッチウェルフェアオフィサーに認定し、翌2023年には一般部会の参加チーム51人をクラブウェルフェアオフィサーに認定しました。また2024年には春に高校生以上のチームが参加する東京都女子サッカー大会の準決勝、決勝をマッチウェルフェアオフィサーの設置試合として経験値を積み上げ、秋には東京主管で行われたO-30の関東大会で全試合にマッチウェルフェアオフィサーを設置して大会運営を行いました。

2024年の冬には、2021年にウェルフェアオフィサー・ジェネラルの更新者2名とともに新規6名の認定を行い女子連盟内各カテゴリー（一般、U-18、高校、U-15、審判、技術）に配置できる体制といたしました。今後は、それぞれのカテゴリーの実状に合わせたウェルフェアの活動を行っていきたくと考えております。まだ設置試合においては、しっかり溶け込んだ状態とは言えないものの、お互いが気づきを与えるという関係の中でJFA が標榜するリスペクトし合える関係を構築していくため、より一層の体制の充実や連盟チーム、選手、スタッフの意識向上を模索して地道に活動を拡大していきたいと考えています。

オフィシャルサイト

<https://sc.footballnavi.jp/tokyosa-lady/>



東京都女子 サッカー連盟

副委員長
前田 光洋



2025年3月に行われた国際交流試合での集合写真



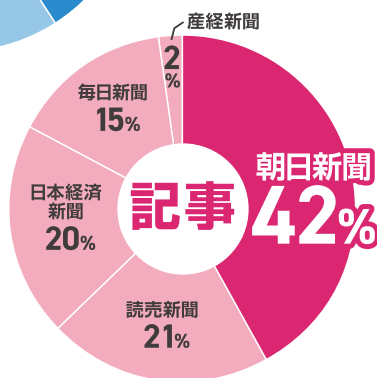
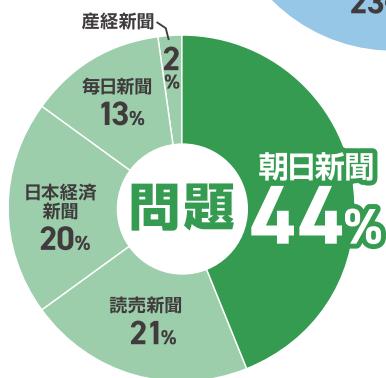
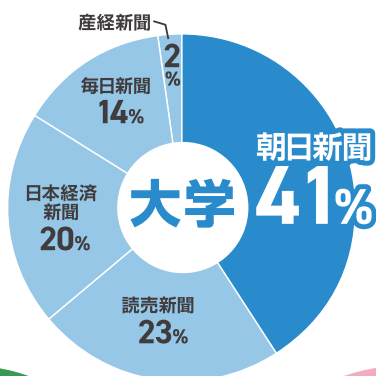
国際交流試合に参加したメンバー

朝日新聞は 2025年度も

大学入試出題数

No.1

全国紙の2025年度大学入試出題実績



※大学通信調べ(2025年5月31日現在)。全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞(読売新聞オンライン)、朝日新聞(紙面版・デジタル版)、毎日新聞(毎日新聞デジタル)、日本経済新聞(日経電子版)、産経新聞(産経ニュース)、回答数775。



朝日新聞

ご購入・お試し読み
受付時間 7:00~21:00

0120-33-0843

